

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」  
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税について考えたこと」

町田市立小山中学校 3学年 今野 友楓

私は、税について前まではそれほど関心を持っていませんでした。ですがこの作文を書くにあたり、税について少し勉強してみても税は私達にとっても大切なシステムだと感じました。これから、税の使い道と社会への影響について考えたことを書きます。

まず、税の使い道について考えたことです。身近に税金が使われているものや思い浮かべると、他にもあるとは知っていますが私の通う学校が一番に出てきます。資料によると、教育費の多くを国や都が負担し、教科書の費用なんかは国が全てを出しています。具体的な数値は想像しづらいですが、それだけ期待されていると受け取れば教科書はもちろん学校にある器具なども雑には扱えないと感じました。

また、少子高齢化による問題についても気になりました。今のまま少子高齢化が進めば、高齢者の生活を支えるために使うお金は増え、逆にその費用を負担する働き手は減ってしまうというのです。ずっと働いて税金を納め、老後にはその分のサービスを受けられる、かと思いきや昔ほどの恩恵を受け取れない。想像ですが、矛盾と遠い将来への不安を感じました。解決策は簡単に思いつきませんが、この国にはこういった問題があると知ることができて良かったのです。

次に、税による社会への影響、特にこの国の経済について興味がありましたので考えてみました。そもそもなぜ経済が気になったかというと、歴史の授業で世界恐慌を習ったときにどうして起こったのか調べてみたからです。そこでは、好況も不況もゆきすぎれば苦しくなると知って、分からないなりにそれらの防ぎ方について考えました。それを踏まえて税の役割を調べると、税によって景気の変動を緩やかにできることが分かりました。たとえば、お金が社会に多く出回り、その価値が下がっている時は増税をして景気を抑え、逆に人々が使えるお金が少なく、消費も生産も減っている時は減税をして景気を上げようとするそうです。これを知って、最近消費税率が上がったことを「余計にお金を払わなければいけないから悪いこと」をいう風にとらえていました。社会全体を見た考えがあったのだろうと考え直せました。

税について調べてみて、税はとても身近でなおかつスケールが大きいものだと全体的に感じました。また、今も問題をかかえていることも分かりました。私はこれからもこのように今の社会について考えたいし、それは大切なことだと思っています。幸運にも私は手を伸ばせば情報を探せるし、選挙などで国に意見を示せるようになります。そういったものを使って、私が納得できる社会で生活できるようにしていきたいです。